

2015 年度 協豊会関西地区 第 2 回講演会
<米国総領事館 上席商務官 アーリン・マエダ様>
「米国自動車業界における I T トレンド」

2015 年度、第 2 回目（7 月 22 日・於富士通テン株式会社社会議室）の講演会は、アメリカ合衆国に於ける、自動車業界を取り巻く環境変化を知り、我々の対応すべき方向性のヒントを得るため、米国総領事館 上席商務官 アーリン・マエダ様をお願いして「米国自動車業界における I T トレンド」をテーマで開催しました。

アーリン・マエダ様は、ハーバード大学哲学科を卒業後ジョンホプキンス大学で高等国際関係論の修士を取得され、米国商務省国際通商局の様々な役職を歴任されました。また、ワシントン D C の連邦準備制度理事会（FRB）とサンフランシスコ連邦準備銀行の金融スーパーアドバイザーを経験され、現在は在大阪・神戸アメリカ合衆国領事館の上席商務官として、米国商務省コマーシャル・サービスのパートナープログラム（セレクト USA）を担当されています。

今回の講演では、自動車業界での I T トレンドを軸に技術革新、消費動向、法規制の変化等について、米国ビジネス環境の特徴も交えてご説明いただきました。

米国では現在の人口、3 億 2 千万人が 2060 年までに約 4 億 2 千万人になり約 1 億人増えると予想されています。一方、日本では同じ時期に人口が 1 億 2 千万人から 8 千万人に 4 千万人減少するとの予想があります。先進国の中では大きな人口増加が見込まれ、また一人当たりの GDP の大きな米国は、ビジネスを行う上で魅力的な環境であるとの事です。また、I T による技術革新で、自動運転技術の発展とそれに伴う法整備が進んでいることを最新の事例を基に説明していただきました。

英語による講演会でしたが、同席いただいた高畑上席商務専門官のわかりやすい通訳により、米国での自動車に関するビジネストレンドを良く理解することができました。

講演のまとめとして、アメリカ合衆国が『最先端の IT を含めた研究開発』・『豊かな消費市場』・『高度なインフラ』・『強固な知的財産保護』そして国家成長に重要なエンジンである『先進国の中では非常に高い人口増加率』等の面から、改めて日本の投資先として非常に有望な投資先である事を実感しました。また、米国との比較で、日本の将来については、人口減少に歯止めがかからず地方の衰退化が進む実態に、危機感を抱かされた講演でもありました。

以上

